

図書館カレンダー

3月	11 木		蔵書点検のため 各館休館あり(日程は左上参照)
	12 金		
	13 土		
	14 日		
	15 月	休館 (大信)	
	16 火	休館 (東)	
	17 水		
	18 木		
	19 金		
	20 祝	休館 (表郷・東) 子ども向け上映会 『しまじろうのわお！ ～みんな いきている～』 りぶらん 13:30～14:10	
	21 日		
	22 月	休館 (りぶらん・大信)	
	23 火	休館 (表郷・東)	
	24 水	▷大人向け上映会 『大草原の小さな家 シーズン1～すばらしい収穫～』 りぶらん 13:30～14:15	
	25 木	▷ミニミニおはなし会 りぶらん 15:00～15:15	
	26 金		
	27 土		
	28 日		
	29 月	休館 (りぶらん・大信)	
30 火	休館 (表郷・東)		
31 水	休館 (東)		
4月	1 木		
	2 金		
	3 土	▷大人向け上映会 『風雲児たち～蘭学革命篇～』 りぶらん 13:30～15:00	
	4 日		
	5 月	休館 (りぶらん・大信)	
	6 火	休館 (表郷・東)	
	7 水	休館 (りぶらん・表郷・大信)	
	8 木		
	9 金		

【各図書館の問い合わせ先／開館時間など】
りぶらん ☎3250 / 10:00～19:00
 ※土・日・祝日の開館 10:00～17:00
 ※エントランスの開館 9:00～21:00
表郷図書館 ☎4784 / 10:00～18:00
大信図書館 ☎3614 / 10:00～18:00
東図書館 ☎1130 / 10:00～18:00

※最新の情報は、図書館にお問い合わせいただくか、ホームページや館内掲示板をご確認ください。



図書館からのお知らせ

《蔵書点検による各図書館の休館》

- ▷りぶらん 3月9日(火)～18日(休)
- ▷表郷図書館 3月10日(水)～16日(火)
- ▷大信図書館 3月3日(休)まで
- ▷東図書館 3月3日(休)～9日(火)

※ブックポストでの返却は可能です。ただし、システムへの反映までに数日かかる場合があります。

※表郷・大信・東のブックポストには、CD・DVDを入れないでください。開館している図書館の窓口か、りぶらんのCD・DVD専用ブックポストに返却してください。

《地域交流会議室7月～9月分の利用申請を受け付けます》

- 受付期間 4月8日(木)～18日(日) / 午前10時～午後5時 (休館日の12日(月)を除く)

※受付窓口で申請してください(電話などでの予約不可)。
 ※重複した場合は抽選となります(先着順ではありません)。
 ※市の行事など予定が入っている場合は、利用できません。
 ※受付期間後の申請は、5月8日(土)から随時受け付けます。

《3月4日(休)からミニミニおはなし会を行います》

- 対象 3歳以上 ●人数 先着5組程度
 - 時間 15分程度 ●会場 りぶらん多目的ホール
- ※会場入り口での検温・手指消毒にご協力をお願いします。

今月のテーマ展示

大人向け

なほきまく

春がやってきます。雪溶けし、柔らかくなった土に種をまくように、新しいことに挑戦するヒントをもらえる本を集めました。

子ども向け

新しいOOを
おうえん!!

新しいクラスや友達…。新しいことが始まる春に、みんなの「新しいOO」を応援する本を集めました。

※ホームページでもオススメの本を紹介しています。

おすすめ新刊

《一般図書》

十二支妖異譚
神様になれなかった動物たち 福井 栄一

十二支が登場する妖しい物語を民話などから抜粋。今年の子支「牛」にまつわる話「牛へ化する女」は、怖い話のはずが、牛女の描写に癒されます。

《児童図書》

2030年までにわたしたちにできることを考えよう！
世界を変えるSDGs 小林 亮 / 監修

最近よく耳にするSDGsって、一体何なの！？と思っているあなたにぴったりの一冊。問題形式で実例が掲載されているので、子どもから大人まで楽しく学べます。

小峰城よもやま話

第十二話 江戸時代の石垣修復

10年前の平成23年3月11日に起きた東日本大震災では、小峰城の石垣も大きな被害を受けました。10か所にわたって崩落した石垣の修復は、8年後の平成31年3月に完了しました。

江戸時代の小峰城でも、地震などの災害で石垣は幾度も崩れてきたようです。城は藩主や家臣の住居であり職場でしたから、都度修復が行われました。

白河藩主阿部家の史料によれば、文政6年(1823)以降、阿部家が白河藩主を務めた44年間のうち、少なくとも5回城を修復しており、そのうち3回に石垣の修復が含まれています。

例えば、天保10年(1839)には、三重櫓、多聞櫓、竹之丸南側、清水門西側などの石垣で崩落の被害があり、同時に多くの建物も被害を受けています。おそらく、台風などの大規模な災害が起きたのでしょう。現在の清水門西側の石垣は、このとき積みなおされたと考えられています。写真を見ると、向かって右側は石と石の隙間が多い積み方ですが、左側は隙間なく石が積みあげられており、こちらが天保10年に積み直された部分と考えられます。このように時代ごとに修復を行ったことで、城にはさまざまな積み方の石垣



▲清水門西側の石垣 (点線より左为天保10年に修復されたと考えられる部分)

が共存しています。また、藩主は城の修理をする際に、幕府に絵図と願書を提出し、許可を得る必要があります。願い出てもすぐに許可されるわけではなく、担当の役人や老中の手で何度か添削・修正され、ようやく正式に受理されます。さらに、天保10年の修復の際は、工費の調達のため、藩領内の村々にも規模に応じた額を負担させました。このように、江戸時代でもさまざまな苦勞を伴いながら、石垣は維持されてきたのです。

渋沢栄一×松平定信 南湖を彩る系譜

第三回 渋沢栄一の生い立ちから 青年期

渋沢栄一は、天保11年(1840)武蔵国榛沢郡血洗島(現・埼玉県深谷市)で生まれました。生家は藍玉の製造販売を営む裕福な農家でした。父親の市郎右衛門は教育熱心で、栄一が6歳の頃から漢文の手ほどきをし、7歳になると、栄一の従兄弟である漢学者・尾高惇忠のもとに通わせて、四書五経などを習わせました。

幼い頃から学問に励んだ栄一は、貨幣経済の発達した土地で家業の手伝いをしながら商才を磨いていきます。これが後に栄一を経済人として大きく成長させるものになります。

栄一はやがて一橋家の徳川慶喜に仕えます。その頃パリで万国博覧会が開催され、將軍の名代として慶喜の弟である水戸家の徳川昭武のフランス派遣が決まると、栄一も随員として渡仏を命じられます。これが栄一の人生の一大転機となりました。

栄一は渡仏後、昭武とともにヨーロッパ諸国を視察し、近代化された社会・文明に驚かされます。フランス経済の仕組み、特に銀行制度や資本主義制度に興味を示し、それらを学んで帰国します。

その後、栄一は明治政府に出仕し、大蔵省の役人となります。



▲大蔵省出仕時代の栄一 (渋沢史料館所蔵) ▲中の家全景 (渋沢史料館所蔵)